

2025 World Sailing Annual Conference レポート

2025 年 11 月 17 日

田中正昭

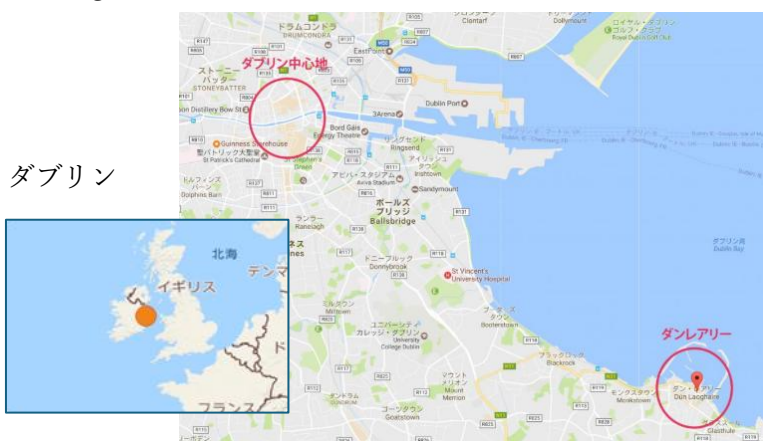
2 期（8 年）振りに WS 委員会メンバーとなって、初めての年次会議に出席してきました。11 月 1 日までは江の島での全日本インカレの PC に参加し、2 日に日本を発ち、3 日朝 6 時に開催地のダブリンに着いて、そのまま IJSC の会議に参加するという強行軍でしたが、後半は齋藤愛子さんの副会長選挙を見届けるべく、最終日 8 日の年次総会（AGM）まで滞在しました。

記

1. 2025 WS Annual Conference

会期：02 - 08 Nov 2025

開催地：Dún Laoghaire（ダン・レアリー）, Ireland



2. 所属委員会での主な議題

IJSC (International Judges Sub-committee) 11/3 10:30-17:00

通常の議題として、以下のことが議論されました。

- IJ Report, IJ Test, Judges Manual, Jury policies, IJ Forms, Standard Wording などのアップデート。
Judge Manual では審問再開の項（F8.2(2)の後半）の記述に不適切なところがありましたが、その部分を削除することに決まりました。更新版がやがて公表されるでしょう。
- IJ の初回および更新認定の審査
その他の注目すべき点としては、
- Competition Technology
IT を使って大会運営しようとする取り組みで、今回全ての委員会で WS 側から報告が行われ、LA2028 で実効を上げるべく、WS の本気度が伝わってきました。これについては、次の項目で詳しく述べます。
- Race Official EDI Development Cohort
Cohort とは、特定の共通要因をもつ集団、といった意味で、要するに、IJ の女性比率がまだ

まだ低い（17%）なか、直近2-3年にIJに認定された女性を集団化し、集中して、大会への指名、そこでのメンタリング、その後のフォローアップを行うなど、女性IJ育成を図るプログラムです。2026年3月始動、同7月までを1サイクルとして実施する予定です。2027年も同様のサイクルで行うとのこと。

- IJ セミナー

日本で2026年2月に開催すべく申請していましたが、タイでのセミナー（2025年12月）と時期が近いため承認されず、一旦取り下げておりました。しかしながら、今回のIJSCにて、例年4回／年だったものが5回開催の予算がおりることになり、日本での2026年7月実施が承認されました。これからJSAF内で実施に向けて詰めてまいります。

- クリニック

NJ向けのクリニックが、WSのプログラムとして実施された（BRA、MAR、URU）ことが報告された。日本はJSAFのプログラムが充実しているので不要か。

TRC (Team Racing Committee) 11/3 14:00-18:00

私が立候補したのはIJSCだけでしたが、なぜかWS側からTRC委員への就任要請があり受けていました。残念ながら今回は会議がIJSCと重なっていたため、最後の1時間のみの出席となってしまいました。会議ではTRの今後のビジョンとともに、

- 2026年Team Racing Worlds (Copenhagen) のプレゼンと各国への参加要請
- 2027年-2028年Worldsのビッドプロセスの説明

などが討議されました。

私からは、全日本TRをTRランキング・システムに登録したこと、コペンハーゲンのワールドには日本からも参加を目指しているチームがあることなどを報告しました。

Umpired Fleet Race WG (11/4 17:00-19:00)

カンファレンス直前になって、Paris 2024のアンパイア・チームで一緒だったYoann Peronneau (FRA)から要請があり、WG入りすることになりました。

このWGはIUSC (International Umpires Sub-committee) の傘下で、IUSCが進めているコール・ブックの再編の一環として、アンパイア制フリート・レースのためのコールの収集、提案を行っていきます。現在コール・ブックは、マッチ・レース用とチーム・レース用のみですが、アンパイア制フリート・レース用のコール・ブックも制作するためです。

3. Competition Technology

今回のカンファレンスを通して、最大のトピックだったのではないかと、私が受け止めているのが「Competition Technology」の話でした。WSとして、今後オリンピック種目として生き残っていくための戦略上の重要な施策の一つと位置付けられています。これには次の3つのテーマがあります。

- ① Digital Race Office
- ② Start & Finish
- ③ Umpiring

①は、日本ではRacingRulesofSailing.org (RRS.org 通称オルグ) というアプリが広く使われていますが、「Digital Race Office」とは、RRS.orgが持っている機能のようなことを指します。世の中には

他にも Manage to Sail(M2S)、ロムズ、SailTI などのシステムがありますが、いままで WS イベントも大会により違うシステムを使っていました。今後（LA2028 から）は、WS 自前のシステムを開発し、使っていくようにしています。

②は、システムにより、リコールを自動的に判別しゼネラル・リコールを防ぐこと、艇がフィニッシュ・ラインを切ったときに自動的に記録され、放送席にも知らされることを目指すというものです。ゼネリコにより競技の遅延が起きないようにして、放送予定時間通り競技が終わるようにすること（セーリングが最も弱い点）が戦略的重要性を持っていることから、開発が進められています。

③について。高速の艇種が増えるにつれ、人間によるアンパイアリングの限界が取りざたされています。すでにカイトではブース・アンパイアが採用されていますが、それは実際には人間が画面を見ながら判定をしています。今後は、とりわけ高速艇種においては、艇の位置、動き、艇間やマークとの距離などがデータや映像として送られ、また「プロテスト」の声かけがアンパイアに伝えられ、それらのデータをアンパイアが瞬時に活用して判定を下し、その判定が即時競技者に届けられる、それにより、フィニッシュ・ラインを切った順番が、そのままその競技の結果としてわかるようにすることを、LA2028 で実現させたいとしています。

4. LA 2028 フォーマット (Events Committee 11/6 10:30-17:00)

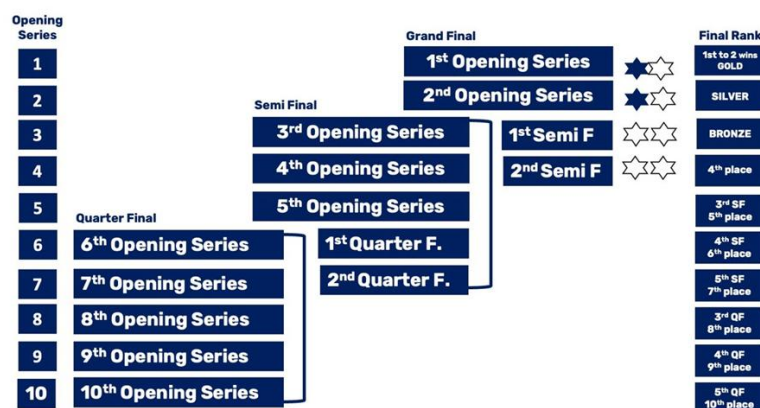
もう一つ大きなトピックとして、齋藤愛子さんが副委員長を務めるイベント委員会に置いて、LA2028 の競技フォーマットの方向性が決まったことがあります。

IOC や OBS (Olympic Broadcast Service) などからの、フィニッシュした順でメダルが決まるようにすべしという圧力の一方、オープニング・シリーズの成績が反映されず、メダル・レース 1 発でメダルが決まってしまう理不尽さとを、どう折り合いを付けるかで、イベント委員会に置いて検討が進められていました。結果として、ボード（ウィンド・ファーフインとカイト）とボートとで二通りのメダル・レースのフォーマット、および、それらを今後様々な大会において試行した後、2026 年 4 月末に最終決定することが提案され、カウンスルと年次総会において承認されました。

詳細は省きますが、それぞれのメダル・レース・フォーマットは次のようなものです。

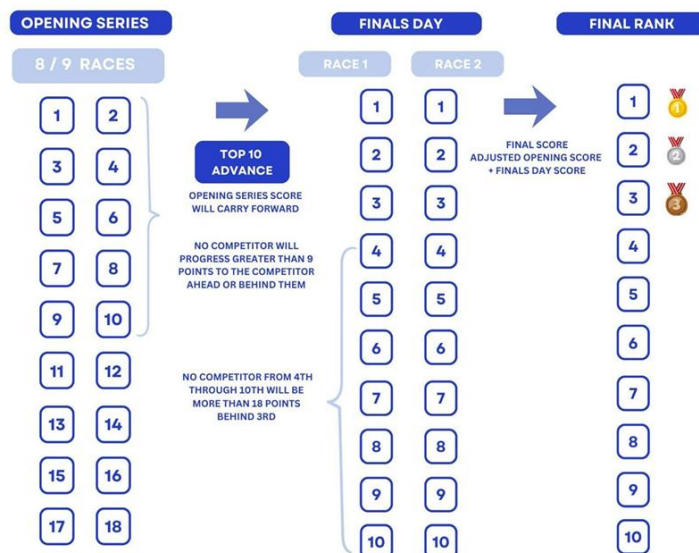
<ボード>

上位 10 艇がメダルシリーズに進み、クォーター、セミ、ファイナルと戦います。ファイナルは最初に 2 ポイント取った選手が優勝、1-2 位選手には 1 ポイントのアドバンテージが与えられます。



<ボート>

上位 10 艇がファイナル・デーに進みます。ファイナル・デーは、2 本のシングル・ポイントのメダル・レースを戦いメダルが決定されます。ファイナル・デーに進んだ艇のポイントは、各艇間は 9 点以内、3 位と 10 位は 18 点以内に調整され、だれでもメダルのチャンスがあるようにします。



5. その他の委員会でのトピック

RRC (11/5 9:30-17:00)

- 規則 60.4(a)(2)

日本の RRC でも議論になりましたが、現行の英文は英文法的に、「インシデントに関与しなかった」と「インシデントを目撃しなかった」のいずれかが当てはまると、抗議は無効であると読めてしまうという問題です。それでは他艇のマークタッチを見たときに抗議しても無効ということになり、それは明らかに意図せぬことであるため、US セーリングから文言の改訂と緊急改訂の提案がなされました。

RRC の結論は、文言の修正は必要と認めるものの、緊急性はなく、文言をさらに検討したうえで RRS2029-2032 において改訂し、それまでは Case を発行することになりました。

リージョナル・ゲーム委員会 (RGC) (11/5 14:00-17:00)

来年の愛知名古屋アジア大会を控えていることから、5 日の午後は RGC を傍聴しました。

Development は RGC のスコープの一部であるということから、Development WG が設置されていて、以下の報告がありました。

- 来年セネガルのダカールで開催される Youth Olympic Games に先立ち、今年の 10 月にチュニジアにおいてアフリカ諸国のユースセーラーとコーチを集めて、トレーニングキャンプが開催された。11 月にも行う予定。
- World Sailing Academy が、今年の 6 月から開設された。
これは Online Learning Platform で、WS ウェブサイトに独立した項目が設置されています。現在は以下の 4 つのコースが開設されていて、誰でも登録さえすれば受講できるようです。

Equity, Diversity & Inclusion in Sailing

Fundamentals of Race Management in Sailing
Introduction to Safeguarding in Sport
Sailing Specific Conditioning Exercises

愛知名古屋アジア大会については特段の報告・議論はありませんでした。

ただし、リージョナル・ゲームズはオリンピックの選考大会と位置付けるべきであるとの決議がなされ、カウンスルにリコメンデーションしているので、愛知名古屋アジア大会も選考会とすべきだとの ASAF からの要求を後押しすることとなりました。RGC 委員長が Arshad 氏（愛知名古屋アジア大会セーリング競技の TD）なので、戦略的な動きではあります。

6. 副会長選挙

女性副会長に 2 名の欠員ができていたため、最終日（8 日）の年次総会で補欠選挙が行われました。2 つの枠に 6 名が立候補しました。日本から齋藤愛子さんが立候補していましたが、残念ながら当選はかなわず、前々日の各候補によるプレゼンテーション (Vice Presidential Candidates' Forum 11/6 17:15-18:45) では、愛子さんのスピーチが最もよかったと思ったのに、残念でした。

当選者

Dr. Sophia Papamichalopoulos (CYP)

医師で WS Medical Commission メンバー

バンクーバー冬季オリンピックにアルペンスキーのキプロス代表として出場

セーリングでは OP 国内選手権優勝、その後は幅広いクラスで活動

キプロスで Winds of Chang という組織を立ち上げ、セーリングを通じての社会活動（ギリシャ系・トルコ系に分断されたキプロスでの民族融和貢献を目指す）に携わる。

Corinne Migraine (FRA)

外洋レースで活躍

FFV（フランス・セーリング連盟）副会長など歴任

現 WS Oceanic & Offshore Committee 副委員長

7. その他

IODA Regatta Committee (11/7 10:00-17:00)

6 月の OPTIMIST 世界選手権の際に行われた IODA の AGM でレガッタ・コミティーに推挙され、当選していましたが、メンバー 4 人全員が WS 会議に来ているのを利用して、対面での委員会が開かれました。

この委員会は、IODA イベント（世界選手権、各大陸別選手権）のレース運営の統括や、ジュリーの選任に携わります。

私も、ジュリー選任で意見を言えるので、日本の NJ で IJ を目指す方には、海外大会を経験するチャンスを得る手助けができると思います。そのような意思のある方は私にお問い合わせください。

以上